

令和3年度水循環施策(令和4年版水循環白書)

内閣官房水循環政策本部事務局



水の仕事を興味を持った時、そして水の仕事に就き、新たな知識を得たいと思った時にまず触れてほしいのは「水循環白書」である。

日本では、2011年に水循環基本法という法律ができ、政府内に水循環政策本部が立ち上がった。この本部を統括するのは内閣府副大臣であり、すべての閣僚大臣が本部員となっている。水循環白書は同法に基づき策定される。正式なタイトルは「〇年度水循環施策」で、前年度の国の水に関するあらゆる政策動向と今後の展望を総合的に取りまとめた内容となる。「白書」として閣議を経て、毎年6月17日(水)に国民に広く公表される。政府刊行物として販売もされているが、ウェブ上で閲覧できる。

降水量、水インフラの普及率、施設の老朽化度合いを示すマクロ的な数値と日本の水循環基礎データが豊富に盛り込まれ、水災害や脱炭素などの最新課題の動向との関連性も知られる。専門知識を持たないヒューマンにとっては「水」について疑問に科学、社会の面から答えてくれ、水道・下水道の専門知識に触れたことのある方にも、水の新たな側面に触れる機会を作り課題認識をアップデートしてくれる。



水の今を知る総合情報

水の就活生にオススメするウェブコンテンツと書籍

水を学ぶ

インターネット上ではさまざまな上下水道、水に関する情報を入手できる。水の仕事に興味を持った学生、そして本紙を手にとった水道・下水道の仕事のビギナーの皆さんにおすすしたい、インターネットコンテンツそして日本水道新聞社発行の上下水道ビギナー向けの書籍を紹介する。

水道の話 第1話の1 おいしい水道水

増子水道研究所 代表 博士(工学) **増子 敦**

増子 敦 工学博士 (YouTube)

このコンテンツは、春に書籍化。書籍版はB5判140ページ、定価1,100円(税別)。Kindle版は定価250円(税込)です。Amazonから購入可能となっている。

「水道の話」は、世界からも注目を集め、台湾においても美観の教材として利用されており、YouTubeには台湾向けの字幕が付けられている。水道への興味を高め、水道を仕事にするための第一歩として、ぜひ読んでほしい。

水道実務者への階段

一般の水道ユーザーが疑問に思う「水道のなぜ？」を東京都水道局長を務めた増子敦水道工学博士が解説してくれるYouTubeチャンネル。水道の基礎的な内容から、技術・経営双方の美点を学べるコンテンツとして実際に水道の仕事に就いたヒューマン、ベテランの双方からも注目を集めている。

東京の水道水は、品質の技術的な裏付け、災害時に断水しないための工夫、各家庭に水道がどのように届いているのか、「民営化」と官民連携の違いなど水道実務者としての経験が披露されることも、浄水器に対する考えや「酒つくりと水の関係性」など、多様な話題から水道の知識と実務にアプローチする。

積み重ねたコンテンツの数は48にも及び、幅広く深い水道の見識を一般利用者にわかりやすく伝える内容となっている。

日本の水道事業の経験

国際協力機構・水道技術経営パートナーズ・日水コン

日本の水道事業の経験

水道の水をそのまぶめる国は世界で12カ国と言われる。日本は12カ国に含まれる。98%という水道普及率と日本は高水準の水道を有することを裏付ける数値として一般的にも用いられる。

本書は、JICA(国際協力機構)などを通じて展開される日本の水道の海外支援において日本の水道の成り立ちや特徴を説明するためにまとめられたもので、JICAの報告資料としてウェブ上に公開されている。

なぜ日本の水道は飲めるのか、いかにして高い普及率を達成したのか、その答えは本書に明確に示されている。

支援対象となる途上国の課題意識に合わせた構成となっており、SDGs(国連・持続可能な開発目標)の目標に沿ったQ&Aを設定。ユニバーサルな課題設定は、水道に興味を持ち始めた全ての人の疑問にも対応する。「広域化」「官民連携」という、今の水道界のトレンドにも即すべきキーワードについても歴史と事例から丁寧に教えてくれる。

教える側は「素朴なQ」を伝えようとするが、教えられる側は、その実を知りたい。海外支援での活用を目的とした本書は、「素朴なQ」を押し付けず、蛇口を使う側から、蛇口の向こう側を守る人の視点へと意識を切り替えてほしい。

日本の水道の実を知る

建設進む下水道

昭和の東京シリーズ 建設進む下水道

東京動画 昭和の東京シリーズ(YouTube)

「建設進む下水道」は、昭和の東京シリーズの1本。昭和30年代の下水道普及率が30%に満たなかった東京都は、昭和48年度を目標に都内各区内全域の下水道整備を目論み、急速に下水道整備を進めていく。

なぜ、下水道整備が必要なのかという根本的課題、そして下水道整備のスケール感、下水道を仕事にする人の躍動感をこの動画では感じることができる。衛生的な生活環境の整備、浸水区域の解消など下水道の関わりや親水空間の整備など下水道の新たな役割を模索する姿は今も変わらない。

下水道整備前の「蓋のない」下水道の姿を感じてほしい。そして最新の上下水道コンテンツが随時アップロードされている。

下水道のない時代

日本全国の水道普及率が98.1%(令和2年度末)、下水道普及率が80.1%(同)に達し、今や、多くの人が当たり前のように上下水道インフラの恩恵を受けるが、これは戦後における急速な普及整備により成り遂げられた数字である。

これらの日本の下水道は、これまで整備したインフラの老朽化が大きな課題となることが、この課題に取り組み、普及整備期の様子を伝えることが大切になる。

東京都が公開する「東京動画」では、さまざまな下水道に関するコンテンツを見ることができ、中でも注目したいのが昭和40年に制作された映像「建設進む下水道」である。

昭和30年代の下水道普及率が30%に満たなかった東京都は、昭和48年度を目標に都内各区内全域の下水道整備を目論み、急速に下水道整備を進めていく。

「水×SDGs」ワーキンググループ報告書 ~SDGsの日本ごと化・水ごと化・自分ごと化~

Japan National Young Water Professionals(Japan-YWP)

SDGs(国連・持続可能な開発目標)はほとんどの人が知る、国際目標となっている。そしてSDGsの17の目標の一つに水と衛生が掲げられていることも知られている。水を仕事にする多くの人々にとっても当然、関心があるが、学生と会話をするとSDGsへの関心はそれ以上に高い様子が伺える。なんと水と近い距離にあるSDGsであるが、これに確かな当事者意識を持つて関わろうとする意外にもメシシにくい。

SDGsを「日本ごと化」「水ごと化」「自分ごと化」させようという取組だが、この報告書を取りまとめた水分野の若手関係者が集う組織「Japan YWP」だ。

Japan YWPは、2年間でSDGsを本気で読解した。目標6「安全な水とトイレを世界中に」にだけなく、17の目標と6のターゲットを「日本ごと化」「水ごと化」「自分ごと化」すべく、咀嚼している。

その中で作り出したのが「水×SDGs」メソッドだ。そのメソッドは使いやすいうえに、日本の水道文脈を使えるようにした。本書はウェブで無料公開している。どのように使えばいいか報告書を読んでほしい。

自らのキャリアパス、働く職場環境、そして水道・下水道業界の未来を描くコンパスとなる。現職の社会人以上にSDGsの高いモチベーションを持つ学生だから、その深い理解に到達できる内容となっている。

SDGsへのコンパスに

改訂版 すいどうの楽学 初級編

熊谷 和哉 著

日本水道新聞社 1,320円

「この本を手にした皆さん、どういった経緯でこの本を読まれているのでしょうか。職業として水道に関わるようになったもの、水道自体についてはほぼ素人、初心者、そんな方々から水道を無理なく、楽しく知ってもらおうと意図して制作した本です。」(本書冒頭より抜粋)

本書の内容は、この言葉の通りである。まさに水道の仕事に興味を持った皆さんに読んでほしい一冊だ。

まずは、学校教育の中では「習った」水道に関する内容を大人になった私たちに再思い出させて、実務に結びつけた学びを与えてくれる。

そして多くの水道初心者に必要になる業界用語の解説も秀逸だ。水道の職は特有の用語が飛び交う。これは新入社員だけでなく、職場の人事異動で水道に関わるようになったキャリアを積んだ社会人も悩ませる言いつまは、業界用語が分れば、水道への理解が一気に進む。

本書は、日々の暮らしの中で身近な水道への理解を、実務者としての水道の理解に丁寧に導いてくれる。

著者は、大学で水道を学び、厚生労働省をはじめとする国の機関で水道に関連した仕事を経験した行政官である。

「初級編」ではあるが、最後には水道法の解説も載せてくれる。知識だけでなく、水道の押さえるべき基本の考えが身につく。

続編として中級編も発行されている。本書を讀めば、日々の景色が全く水道の学びへと変わる。

水道を無理なく楽しく

「この本を手にした皆さん、どういった経緯でこの本を読まれているのでしょうか。職業として水道に関わるようになったもの、水道自体についてはほぼ素人、初心者、そんな方々から水道を無理なく、楽しく知ってもらおうと意図して制作した本です。」(本書冒頭より抜粋)

本書の内容は、この言葉の通りである。まさに水道の仕事に興味を持った皆さんに読んでほしい一冊だ。

まずは、学校教育の中では「習った」水道に関する内容を大人になった私たちに再思い出させて、実務に結びつけた学びを与えてくれる。

そして多くの水道初心者に必要になる業界用語の解説も秀逸だ。水道の職は特有の用語が飛び交う。これは新入社員だけでなく、職場の人事異動で水道に関わるようになったキャリアを積んだ社会人も悩ませる言いつまは、業界用語が分れば、水道への理解が一気に進む。

本書は、日々の暮らしの中で身近な水道への理解を、実務者としての水道の理解に丁寧に導いてくれる。

著者は、大学で水道を学び、厚生労働省をはじめとする国の機関で水道に関連した仕事を経験した行政官である。

「初級編」ではあるが、最後には水道法の解説も載せてくれる。知識だけでなく、水道の押さえるべき基本の考えが身につく。

続編として中級編も発行されている。本書を讀めば、日々の景色が全く水道の学びへと変わる。

下水道ははじめの一步

岡久 宏史 著

日本水道新聞社 1,980円

下水道も下水道も、各人の生まれ育った環境で理解の仕方が変化する。生まれ年や性別をとって見ても、インフラの捉え方は多様だ。下水道の多様性により顕著なインフラかもしれない。

本書では、下水道整備の目的について下水道法の記載をそのまま「住まいの環境を快適にする」「街を清潔にする」「街を浸水から守る」「河川や海、湖沼の水環境をきれいにし、保全する」の4項目に整理している。また、近年はこれに加え、再生可能エネルギーや農業肥料の資源工場としての役割も担ってきた。

下水道とこれらとの役割を担ってきた背景、そしてこの役割を果敢とせざる下水道システムの仕組、近代以降に作られた水道資産の価値を、四十一一年一五五以上たたり、日本の下水道に携わってきた。と語る日本水道協会の岡久宏史理事長の知識と経験から、下水道「キナー」にもわかりやすく解説している。

使った水はどこへ行くのか、なぜ汚れた水がきれいになるのか、誰が費用を賄っているのか、下水道の基礎を下水道の歴史と制度を踏まながら理解することができる。

国民が感じる下水道の多様な恩恵は、日々の営み地面の下から支え、排水口やトイレの向こう側で時代のニーズに合わせて大きく変化してきた水道の努力の賜物と捉えよう。

本書は、基本的理解の先にある膨大な下水道のポテンシャルを引き出すための「はじめの一步」になる。

下水道の「？」の解決を

KEEP THE LIFE LINE

TAISEI KIKO 2022

水道管路機器のバイオニア、不断水の大成機工株式会社

本社/大阪市北区梅田1丁目1番3 TEL.06(6344)7771(大代表)

www.taiseikiko.com

美しい水を 日本中の人人々に

安定した品質

mopit-P V=147m

優れたメンテナンス性

mopit-Z V=2,000m

優れた施工性

mopit-AT V=60m

mopit-X V=4,200m×2池

mopit-XT V=1,015m

MORIMATSU SUStainable

森松工業株式会社

本社 TEL(058)323-0333 福岡支店 TEL(092)724-3060 金沢営業所 TEL(076)263-4001 東京支店 TEL(03)5360-3551 東北営業所 TEL(022)727-7501 広島営業所 TEL(022)568-8511 名古屋支店 TEL(052)222-3456 北関東営業所 TEL(048)447-8068 高松営業所 TEL(087)866-3681 岐阜支店 TEL(058)323-0336 長野営業所 TEL(0263)40-2120 宮崎営業所 TEL(0985)47-3050 大阪支店 TEL(06)6100-2055 静岡営業所 TEL(054)275-2125 鹿児島営業所 TEL(099)219-1801